

1. 神楽について

《自己紹介》

皆さん初めまして、おはようございます。成城大学から来ました、馬場綾音と申します。今日は、私が行って来たあるボランティア活動で得たことを皆さんにお伝えしつつ、私が考えるボランティアについてもお話していきたいと思っています。1時間よろしくおねがいします。

《活動開始のきっかけ・神楽ボランティアの特徴》

私はこの活動を今年の春から始めたのですが、この活動を始めてから、私の大学生活が大きく変わりました。

どう変わったのかというと、大学生って言ったら、ひたすらバイトにサークルに授業...そういう生活を送っている人が多いですよね？私も去年まではその一人だったんです。ですが、活動を始めてから貴重で面白い経験をたくさんして、色々な人と出会って、世界の見方が180度変わったんです！ああ、世界ってこんなに広くて自由に良かったんだなと思いました。このボランティア活動をして、ほんとに良かったと思っています。

この活動を紹介してくれたのは、実行委員会の連絡窓口担当の方でした。私が入っているボランティア団体に、こう話しを持ちかけてきたのです。

「神楽公演の企画を一緒にやってみない？」

神楽って何？実行委員って何するの？

最初は何が何だか全然分からなくて、大変そうだし、どうしようかな...と迷っていましたが、でも、話を聞いている内に、大学生の内にこんな面白そうな経験ができるなんて、めったにない！せっかくだし、やれるところまでやってみよう！という気持ちになりました。なぜなら、この実行委員会というのは、

・伝統がなく、規則がない。

- ・やれるとこまでやればいい。中途半端も全然オーケー
- ・学生スタッフだけでなく、シニアスタッフがついていてくれる

という団体だと聞いたからです。

これなら私でもできそうだと思います。こんなことをきっかけとして、私はこの実行委員を始めましたが、簡単そうだという最初の印象とは裏腹に、この半年間とても大変で密度の濃い生活を送りました。そんな神楽ボランティア活動「江戸里神楽公演学生実行委員会」についてお話ししていきます。

《神楽について》

まず、ボランティア論とは少し脱線した話をします。

私たち実行委員会が企画・運営をしている「里神楽」って何？ということです。それは...

江戸時代から庶民の間で伝えられている歌舞
仮面をつけて主に無言で行われ、
日本の神話を基にしている

というものです。つまり、今なお継承中の日本の伝統芸能の一つなのです。

近年神楽の認知度は下がっており、継承者も減っている。実は、衰退しつつあるのです。私たちは神楽のそんな危機を救うため活動しているのです。

それでは、私たちの活動の紹介も兼ねて、実際に神楽がどんなものなのか、少しだけ見ていただきましょう。

(実行委員会 動画)

ありがとうございます。

ちなみにこちらは一昨年の実行委員会の様子です。メンバーは毎年変わるので、今とは全くメンバーは違うんですよ。

《神楽の魅力》

私も実行委員会に入って、神楽の面白さにすっかり魅了されてしまいました。まず面がとてもユニークなのです。こちらをご覧ください。

とても表情が豊かですよ。見ているだけで自然と笑顔が溢れてしまいます。

そして豪華な衣装と演出。今年の出演者の垣澤社中。こちらをご覧ください(スライド
4) なんと衣装や小物は全て自前で作っているんだそうです。実際に見るとなんとなく

分かるのですが、とっても華やかなんですよ。ただ見ているだけでも面白いです。細かい演出にもこだわっているんです。例えば、「紅葉狩」という演目で、姫に化けていた鬼女が、蜘蛛の糸と言って白い糸を投げつける演出があったり、(スライド 5)「天之磐扉」という演目では、大きな岩から、閉じこもっていた天照大御神が出てくるという演出があります。(スライド 6)

どの演目にも、客の目を惹くような演出がいくつも含まれています。

活動していく上で出演者の方から神楽のことをたくさん聞いて興味を持ってしまったので、なんと卒論で神楽について書こう！と思っていたり、垣澤社中が出演するイベントで実際に神楽をやらせていただくことになりました。

《活動内容》(スライド 7)

それではとうとう実際の活動についてご紹介いたしましょう。私たちの活動には、当日ボランティアと通年ボランティアがあります。当日ボランティアは、公演当日の運営のみを担当しますが、通年ボランティアは準備から後処理まで、約一年間ずっと、活動していくことになります。通年ボランティアは人数が少なめで大変ですが、みんなで協力し合って乗り切っています。

通年ボランティアにおいて最初の活動は公演前。何をするって言ったら、もちろん当日の公演準備です。

例えば、こちらはプログラム制作の打ち合わせの写真です。(スライド 8)ここでは、出演者の垣澤瑞貴さん、シニアスタッフの連絡窓口担当さん、学生スタッフである私、出版社の方でプログラムの内容について打ち合わせを行いました。

学生が関わっているものの一つにこの表紙などのイラストデザインがあります。挿絵なんかも描いています。このプログラム、ご覧になってお分かりになる通り、とても厚いんです。たかが1日の公演でこんなに盛りだくさんなプログラムは他にはありません。そんな価値の高いプログラムの表紙イラストを描くことで、とっても自己アピールをすることができるんです。このおかげで、ここだけの話、過去に優良企業に就職が決まった学生さんもいたそうです。

そして最後のコラムのページ、資料でお配りしたのは私が入っている団体についての紹介コラムです。活動に参加したきっかけなども詳しく書いており、メンバーも大募集中です。

そして何と言っても大変なのがこの外国語解説です。これは神楽公演の紹介を自分

たちで外国語に訳しているのです。それぞれ留学生と友達になり協力しながら作成しています。今年はベトナム人とマレーシア人の知り合いがいるということで昨年に比べさらにベトナム語とマレーシア語の2言語を増やしました。英語、中国語、韓国語、フランス語、ウォルフ語(セネガル語)に加えて2言語追加ですから、7ヶ国語で神楽を紹介できました、

〈ベトナム語・マレーシア語を担当した木伏さんの感想〉

そして、私たち実行委員会にはホームページとツイッター、フェイスブックがあります。それらを管理して、情報を更新していくのも学生スタッフの役目です。

こちらは私が管理しているウェブページです。(ホームページ)

この新着情報には、公演の準備状況などが更新されています。スタッフも、こちらを見て情報を共有していきます。これからも公演動画や写真など、新しいコンテンツを増やしていきたいと思っています。

こちらはツイッターです。(ツイッター)

ツイッターでは、ウェブより詳細に準備状況が更新されているので、学生スタッフはチェック必須です。こちらも、後々質問に答えたり、色々盛り上げていきたいと思っています。

インターネットは、近年新しいコンテンツもどんどん増えています。それと同時に実行委員会も新しいコンテンツを増やしていき、ウェブを盛り上げていくことで、より若い世代のたくさんの人に神楽を知っていただけたらいいなと思っています。

そして当日演目中に流した解説字幕です。(字幕)これがあることで、初心者の方にもとても分かりやすく神楽を見ていただけるんです。

制作した字幕は、当日こんな風に上映しました。(スライド9)

公演の準備は大体こんな感じですよ。

準備の他にも、公演をやる上で、実際に神楽を見る必要があるということで、神楽奉納を見学に行ったりもしました。(スライド10)

この時私は生まれて初めて神楽を見ました。この日、神楽ボランティアにかける思いがより大きくなったのを覚えています。(スライド11)

このように、司会をやらせていただいたことで演目への理解も深まり、絶対当日の公演を成功させたい！他の学生スタッフのみんなにも楽しさを知ってほしい！と強く思いました。

さて、ここまで公演前のお話をしていききましたが、お分かりの通りとてもやることが多く

忙しいです。学生スタッフは、うちのユースメンバーは他のボランティアも一緒にやっていたり、他のスタッフも大学や自分の行っている活動も忙しかったり、中々実行委員会だけに時間を取れる人はいないです。なので、一人一人の負担が少し大きくなってしまうこともあります。でも、だからこそ皆で協力し合い、ミーティングを前日に行うことでなんとか乗り切ることができました。

(スライド 12)

さあ、準備が整えばいよいよ本番です！今までの成果を発揮するのでとても大事です。この日は雲ひとつない晴天だったので、お客様もたくさん来ました。なんと9回の公演の内一番だったそうです。こちらの写真をご覧ください。毎年席は予約でいっぱいですが、今年は特にキャンセルが少なく多くの方で賑わっていました。

(スライド 13)

これは朝のミーティングの様子です。この時初めて学生スタッフと顔を合わせました。この活動は基本的にロケーションフリーなので、実際の集まりはほとんどないのが特徴です。

〈以下写真を使いながら順々に説明〉(スライド 14~19)

以上が当日の活動でした。

公演は無事に成功させることができましたが、皆が初めての経験であるため、反省点が沢山見えました。例えば、座席の問題。同じ席に二人のお客様...ということがあったり、席のないお客様に対して補助席でのご案内になってしまう、ということがありました。そして、受付の流れの不手際。たくさんのお客様が一気に押し寄せ、お金を払ったお客様と、支払いがまだのお客様がごちゃごちゃになってしまったこともありました。これらのことは、当日のイメージが掴めず情報共有や準備が足りなかったために起きてしまった問題です。そのため、どうしたらよりお客様に楽しんでいただけるのか、反省点をしっかり見つめることが重要です。

(スライド 20)

これが終わればあとは片付けのみ...と言いたいところですが、実はこれからが大変だったりします。

まず、公演が終われば人数がどっと減ります。そのため、より少ない人数で色々なことを処理していかななくてははいけないのです。

例えば、写真は公演に使った領収書の整理を行っているところです。それから、ウェブにお客様・学生・出演者の感想をアップします。これらは、これからの実行委員会の活動を円滑にするためのフォローです。

そらから、寄付をいただいたお客様へのお礼状書き、ホームページへの公演当日の動画や写真のアップ。これらは来ていただいたお客様へ、より深くご満足いただけるようにするためのフォローです。

公演後の後処理は、一見あまり重要でないように思われますが、今まで行ってきた準備や公演当日のことを振り返る重要な作業です。当日でスパッと終わって仕舞えば反省もなく、ただ楽しかったね。いい経験だったねで終わってしまいます。それでは未来へ、たった来年にさえつかがるものは何もありません。この委員会は、神楽を「未来へ」伝えていくとを目標としています。そのため、これからのことを考えなくては何も始まらないのです。

《まとめ》

以上が学生が実行委員会の具体的な活動になります。つまり、この活動は

- ・それぞれ個別に活動をしていて
- ・完璧を目指しておらず
- ・自分たちで活動を模索していく

というボランティアのなのです。会社のようにしっかりした機関でなく、緩いところがあるからこそ、このような広くて自由な活動ができ、色んなことをやってみようという積極性が身につくのです。

《問題点・改善点》

もちろんメリットだけでなく、大きな問題点もたくさんあります。

例えば金銭面。それから人材。遠くで活動してるからこそ生まれる意識の差。これらが完全に解決することは難しいですが、この委員会を来年も続けると決めたからには向き合っていかななくてはいけない問題です。

それに、まだ大人のシニアスタッフに頼っていて、自分たちで活動を模索するまで至っていないというのも現状です。

《未来の展望》

ただ、この委員会が続いていく以上、可能性は無限にあります。伸び代があるということは、その分大きく成長できる可能性ということです。この委員会が来年も再来年も続いて、関わった学生が『成長』して、やって良かったと思えるようになってほしいというのが私の願いです。

2. ボランティアについて

(スライド 21)

どんな活動をしてるかはわかったし、いい経験になるんだろうけど、やっぱり給料をもらえるわけでもないのにこんな大変なことわざわざしたくないな...と思う人もいます。

ですので、今度はボランティアをすることで得られるメリットなどについて考えていきたいと思います。

《ボランティアを始めた理由》

私は良く、「何でボランティアをしようと思ったの?」と聞かれることがあります。一言で言うと、「自分のことが嫌い」だったからです。こんな自分でも、何かの役に立っているんだ、世界に必要とされているんだという実感を得たかったのです。私は運動もできないし手先も不器用だし、何も得意なことなんてありません。じゃあ、簡単にできて、しかも人の役に立てることってなんだろう?と考えたら、進学した母校である大宮開成高校でボランティアをしている部活、インターアクト部を見つけたのです。

では、人はなぜボランティアをしようと思うのでしょうか?何のメリットもないことを、何故自ら行おうと思うのか。

(スライド 22)

よく言われるのは、内的要因と外的要因です。

内的要因とは、「自分の価値を高めたい」というような、自発的に生まれる動機のことです。例えば、関東大震災を経験したことで、被災地の状況を知り、被災者の役に立ちたいと震災ボランティアを始める、というものがあります。

それに対して外的要因とは、「見返りを得たい」という、何かしらの報酬という後ろ向きな動機のことです。例えば、ボランティア経験という実績を得ることで、進学や就活に役立てたいというものです。

よく「ボランティアに見返りを求めてはいけない」と聞きますが、私はそうは思いません。誰だって、見返りが無ければ行動したくないのは当然のことで、今ボランティアをしている人のほとんどは、心のどこかに見返りを求めているはずです。

でも、どんな要因であれ何かの誰かのためになるなら、それでいいじゃないですか。私だって、最初は外的要因がありました。ボランティアをすることで褒められたい、人に認めてもらいたいと思っていました。でも、それがいつしか内的要因に変わり、ボランティアをすることを心から楽しんでいたので。

つまり、きっかけは自分のためでも、活動していくうちに内的要因に変わっていくのです。

《どんなボランティアがあるか》(スライド 23)

じゃあ、どんなボランティアをやったらいいんだらう。答えは、何でも自由にやってオーケーです。ボランティアっていうのは、強制的にやらされるのではなく、自分の意思でやるから価値があるのです。

ボランティアと聞いて、どんなものが思い浮かびますか？介護や被災地訪問、募金活動などがありますね。こういうのがボランティアってイメージが強いのではないかと思います。こういうのを、私たちはボランティアの形式知、暗黙知と呼んでいます。つまり、漠然的なボランティアに対するイメージです。

もちろんこれらも立派なボランティアです。現に私も行っていますからね。

でも、それだけじゃないのだということを知ってほしいのです。ボランティアには、これをやらなくちゃいけないという枠取りはないのです。人それぞれ、どういうことに意義を感じ、どういう人の役に立ちたいかって、人それぞれなんですよね。それでいいんです！だから、まずは色々やってみてください。それで続けたいなって思えるやつだけやればいいんです。

《ボランティアをして得られること》(スライド 24)

ボランティア活動は、自分をなりたい自分に近づけるお手伝いをしてくれるんです。

皆さんも、こういう人になりたいっていう思い、ありますよね？

優しい人間になりたいと思ったら、ボランティアで人と関わって人を気遣うことを学べるし、異性にモテたいと思ったら、ボランティア活動を通して異性と会話することで、異性に対する接し方も分かります。

例えば、神楽ボランティアだったら、お礼状を書いたりすることで社会への礼儀を学べるし、学生スタッフ同士の関わりや留学生との交流により、コミュニケーション能力を向上させることができます。一つ一つの活動内容に、ちゃんとメリットがあるのです。

それぞれが、それぞれ違った目的を持って行動しているのです。

最初のきっかけは決して大きなものでなく、どんなに小さくてくだらないことでも構いません。でも、続けていくことで、いつの間にか視野が広くなり、違う自分へと成長してゆけるのです。

ですので、ぜひ色々なボランティアを経験して、色々な人と関わり色々な経験をして、より一層素敵な自分になってください！